

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療養デイ思いやりキッズ			
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～	令和7年 3月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	13名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～	令和7年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児を多く受け入れており、痰の吸引や経管栄養などにも対応可能な体制を整えています。看護職や研修を受けたスタッフが常駐し、安全・安心な支援を提供しています。	・迅速かつ適切な対応を実施：看護師が日々の健康管理や異常の早期発見に努めています。 ・スタッフ間の情報共有：送迎時や保護者との情報交換を行い体調や処置内容、支援方法を共有しています。	・災害、緊急時の対応体制の強化：BCPや避難訓練の実施 保護者や医療機関との連携ルートの確立を行っていききたいと思います。 ・外部専門職との連携強化：医師、訪問看護、リハビリ専門職との連携のよる支援の質向上を目指していきます。
2	ご家庭での入浴が難しいお子さまにも快適な入浴支援を行っており、清潔保持だけでなく、リラクゼーションや皮膚状態の観察・ケアにもつなげています。	・個別対応の徹底：児童一人ひとりの身体状況などに応じた対応を行っています。 ・安全面の配慮：必ずスタッフ2名で実施。介助者のポジショニングや緊急時の対応マニュアルを整備しています ・家族との連携：自宅での入浴状況を共有し、希望などを汲み取るヒアリングを実施しています。	・児童の「楽しさ」や「リラクゼーション」への配慮：好きな音楽を流す。光などを活用（感覚刺激をリラクゼーションに活かす）していきたいと思います。 ・看護師、リハ職など職員間での連携強化：身体状況の変化を踏まえた支援の見直し、リハビリ的要素の導入していきたいと思います。。
3	保護者との連携を大切にし、定期的な面談や連絡帳を通じて、ご家庭と一体となった支援を行っています。 医療的ケアに不安のある保護者にも安心を届けています。	・連絡帳でのやりとり：様子や変化などを記載し、家庭での様子とながらうように配慮しています。 ・定期的な面談の実施：信頼関係を大切にし、保護者の思いや悩みを聴く姿勢を重視しています。 ・職員間での情報共有の徹底：保護者からの情報が現場全体で共有され、支援に一貫性が出るよう工夫しています	・保護者交流会の定期開催：保護者同士のつながりを支援し情報共有の場として機能させていきたいと思います。 ・ホームページの定期的更新：活動中の写真（動画）を共有し、児童の成長をリアルに伝えていければと思います。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数によっては、室内がやや手狭に感じられる状況が生じています。このことは子どもたちの安全な動線の確保や個別支援の質の維持に影響を及ぼす可能性があります。	1. 施設の物理的制約 建物の構造上、拡張や間取りの大幅な変更が困難である。 2. 重心児特有の支援ニーズ 医療的ケアや専用機器の設置が必要なケースが多く、一般的な放課後等デイサービスよりも広いスペースが必要となる。	レイアウトの見直し 動線を意識したゾーニングを行い、スペースの有効活用を図る。必要に応じて、収納の工夫や備品の見直しも検討。
2	排泄介助の環境が不十分。専用の介助ベッドがなく、室内でパーティションを設置して対応している状況。 プライバシーや衛生面に配慮が必要な状況です。	専用スペースの整備が必要。 実際の支援状況や困難さについて保護者への丁寧な説明、共有が必要。	排泄スペースの確保検討。 安全かつ尊厳を保った排泄支援を行うためのカンファレンス実施し支援の質を高める。 保護者の想いを受け止めつつ現状を共有。